

研究課題名  (倫理委員会承認番号)	中大脳動脈 M2 閉塞に対する血栓回収術における、ステント回収時の血管偏位と有効再開通率の相関  202305
当院の研究責任者(所属)	蛭子裕輔 (脳神経外科)
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	<p>急性期主幹動脈閉塞に対する血栓回収術の有効性は広く知られており、ガイドライン上も適応症例には強く治療が推奨されている。内頸動脈や中大脳動脈 M1 や脳底動脈といった近位主幹動脈の閉塞は絶対的適応だが、中大脳動脈 M2 や前大脳動脈や後大脳動脈といった主幹動脈のやや遠位の血管閉塞に対しては、メリットが手術のリスクを上回ると考えられる場合に慎重に適応決定される。今日のカテーテルやステントの改良発展により、より遠位の閉塞血管に対しても安全に血栓回収ができるようになってきており、相対的に手術適応は年々拡大してきている。</p> <p>中大脳動脈 M2 閉塞に対する血栓回収術は年々増えてきている。血栓回収により有効再開通が得られるのは 6~9 割程度と報告されており、有効再開通が得られない場合も一定数存在する。本研究では、M2 閉塞においてステント回収時の血管の偏位が大きいほど有効再開通率が低下するという仮説をたて、この相関を明らかにする。相関が明らかになれば、ステント回収時の血管偏位を少なくするための工夫(併用する吸引カテーテルを M2 まで進めるなど)を行っていくことで有効再開通率を上げていくことができると考えられる。</p>
調査データの該当期間	倫理審査委員会承認後 ~ 2025 年 12 月 31 日
研究の方法 (対象となる方)	<p>急性期主幹動脈閉塞に対して当院で血栓回収術を施行した患者のうち、中大脳動脈 M2 の閉塞に対してステントを用いた血栓回収を行った患者</p> <p><b>【除外基準】</b></p> <p>本人、あるいは代諾者から承認の得られない患者 医師が不適切と判断した患者</p>
研究の方法 (使用する情報)	<p>(1) 研究方法</p> <p>研究対象者の血栓回収術時の手術動画を見直し、ステント回収時の血管の偏位の程度と有効再開通が得られたかどうかを計測・確認し、相関があるかどうか解析する。</p> <p>(2) 解析方法 (本院で <input type="checkbox"/>実施しない <input checked="" type="checkbox"/>実施する)</p> <p>有効再開通が得られた群と得られなかった群の2群間で、ステント回収時の血管偏位の距離をMann-Whitney U検定で比較検討する。</p> <p>(3) 評価項目・方法</p>

	<p>手術動画でステント展開時とステント回収時の血管走行をtraceし、そのカーブの頂点からの垂直距離を計測し、同じ動画でうつっているガイディングカテーテルの径との比率を算出する。</p> <p>有効再開通が得られた群と得られなかった群の2群間で、上記の比率の他、使用したカテーテルの種類、ステントの種類、ステントの径・長さ、背景因子（年齢・性別・NIHSS・DWI ASPECTS・転帰など）、術後頭蓋内出血の有無などを比較する。</p>
資料・情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	データの解析および研究成果の発表・公表においては、個人を特定できる形としない。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	翠清会梶川病院 脳神経外科 蛭子裕輔
備考	